

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300035		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート稲毛園生		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町815-1		
自己評価作成日	令和2年2月20日	評価結果市町村受理日	令和2年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近隣に買い物ができる施設がある為、気軽に自分の食べたいもの、欲しいものをご自分で買いに行くことができるよう支援しています。ほぼ毎日のように買い物に行き、ある程度、ご自分の欲しいものを買えるよう努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは外部評価も活かしながらサービスの質の向上を目指している。家族には利用者の様子を写真入りで毎月報告するとともに、協力医の診療計画書も送付し医療情報を伝えるようにしている。外出に力を入れており、毎日の買い物や外食など、外に出る機会を作っている。入浴は週3回の支援を基本にしている。入浴の時間は、職員が利用者の思いなどを聞く場ともなっている。管理者は地域との関係を深めたいと考えており、ホームに来ているパン屋を地域の人に利用してもらったり、地区の運動会に参加するなど、地域住民との交流の機会を増やしたいとしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロア、休憩室に理念を掲示し、常に意識して頂けるよう努めている。	「最高の人生を送りましょう」というホームの理念をつくり、各フロアや職員休憩室に掲示している。理念の実現は利用者のみならず職員にも通じることとし、自分の人生の楽しみや喜びを見出すよう朝礼等で伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お客様の総体的な現状の報告、個々のケース報告やイベント等の報告を行い、抱える問題点について、構成員の皆様のご意見、ご要望をお伺いして、改善に努めています。	地域との関係を大切にしており、散歩で近隣の人と挨拶したり、地域の小学生の職場見学や高校生の傾聴ボランティア、ホームの夏祭りには太鼓のボランティアが来てくれる。また、月に2回パン屋の訪問があり、利用者は買い物を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	域住民からの介護相談、直接来訪相談に対応しています。高校生のボランティアや職業体験、小学校の職場見学等の受入を行い、認知症の人の理解や支援の方法を伝える機会を設けている。こども110番のいへの申請を行い、地域貢献に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の総体的な現状の報告、個々のケース報告やイベント等の報告を行い、抱える問題点について、構成員の皆様のご意見、ご要望をお伺いして、改善に努めています。	地域包括支援センター職員や介護相談員、民生委員、家族などの参加で3か月に1回開催している。議題は利用者の状況やヒヤリハット・事故報告、行事及び身体拘束適正化委員会の報告などであり、参加者から意見をもらっている。	民生委員や自治会関係者、家族の参加を促したり増やすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の判断が必要な件については介護保険事業課に問い合わせをし、日々のケアでの質問などは、担当のあんしんケアセンターに問い合わせをするようにしております。	市の担当課には相談に乗ってもらったり、地域包括支援センター職員からは運営推進会議で助言などをもらっている。介護相談員も受け入れており、普段から行政とは協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り、向精神薬を含む薬の服用を減らせるよう努めています。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠はしているが、外に行きたい利用者には職員が付いていくようにしている。また、行動を制限する言葉遣いをしていないか毎月の会議で振り返っている。身体拘束適正化に関する委員会を設置し、運営推進会議で報告している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんな行為が虐待にあたるのか、研修を通し全スタッフが共有できるようにしています。今後も意識を維持していく為に研修を行っていきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後拠点会議時に研修を行い職員に理解していただき活用できるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけではなく、必ず書面でその内容等をお伝えし、ご質問を受ける機会を設け、ご理解とご納得をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、各方面からの意見をいただいています。それ以外にも各計画作成担当者からご家族様へは綿密に連絡を取るようにし、ご意見をいただく体制を整えています。	利用者の要望等は日々の関わりの中で聞いたり、家族の意見等は面会時や運営推進会議で把握に努めている。利用者からは外出の要望があったり、家族からは感染対策への意見があり、出された要望や意見に対応し取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを定期的実施、および日々の申し送りにて直接意見を聴取。また、現場職員が相談役となり、パートスタッフの意見を聴取するようしております。	3か月に1度、職員と個人面談をおこない意向の把握に努めている。毎日の申し送りや月1回の会議においても意見を聞いている。職員意見を反映し、利用者へのよりよいサービスにつなげるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行うことにより職員個人個人の意向を把握するようし、目標設定を共に行うようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に加え、職員本人が納得できるまで個別に介護技術指導を行い、職員の技術や知識の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社員は本社研修等、交流する機会が設けられています。また外部の研修等へ参加する機会を作り、サービスの向上を図っています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に、ご本人様が安心できる環境で暮らすことができるよう、ご本人様、ご家族様へ面談をし、直接ご意見を頂戴しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりとアセスメントを行い、ご家族様、お客様のニーズを聞きだし、不安を軽減できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護相談の窓口として様々な相談を受けるとともに、当施設でのサービスを希望される段階ではないと思われる場合は、他事業所やあんしんケアセンターなどを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様とが一緒に洗濯物を干したり、調理や食器洗いをしたりと日常生活を営んでおります。介護するされるということではなく、お互いに感謝の気持ちを持ち続けることのできる関係を築けるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居されても、ご本人様にとってご家族様の協力は必要不可欠なものであることを説明し、ご家族様が気軽に施設にお越しになれるよう、日々の様子をお伝えしたり、行事へのご参加をお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が希望された場合は、お電話を使いご連絡を取っていただくようにしております。気軽に親類・知人などが来訪できる雰囲気を作ることによって、外部との交流を図りやすくする様に努めております。	利用者の親戚や兄弟などが訪れている。家族に電話をしたいときは電話を掛けるのを手伝ったり、取り次ぐなどしている。ホームを家庭の延長と考え、家族や親戚などが気を遣わずに来訪できるような雰囲気作り心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様個々の心身状況情報だけでなく、ユニット内のお客様の間関係についても共有を行っています。お客様同士の関わりが良くなるように、場合によっては席の配置を変えさせていただくなど工夫をしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とするお客様やご家族様には、管理者、計画作成担当者より、定期的に連絡させて頂き、近況などをお伺いしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を優先し、不可能な場合はご家族様にご意見を頂戴する等して、ご本人様にとって一番良いと思われるケアプランを作成し、ご承諾をいただき、実際のケアに活用しております。	日々の暮らしの中で利用者の気持ちを聞き取るようにしている。入浴中に把握した利用者の思いを介護計画に反映した事例もある。ただ、年々コミュニケーションが取れる利用者が少なくなってきており、家族から聞くことも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリングシートやサマリー等を作成し、職員と情報共有をしています。また、アセスメントシートなども確認するように促し、情報の積極的な収集を促しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設職員全員で、日々の生活の中の小さな変化に気付けるように関係を深めています。また、日々の申し送りや、連絡ノートでの情報共有を徹底しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、お客様、提携医療、管理者、計画作成担当者、現場職員の意見を取り入れ、介護計画に反映させています。	担当者会議は家族にも声掛けし、職員意見、主治医意見を踏まえ、日常のケア記録などを参考に介護計画を作成している。介護計画は、計画作成担当者が毎月モニタリングをおこなって3か月ごとに更新し、変化がなければ短期目標の期間である6か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌、業務日誌を管理者、計画作成担当者が確認、申し送り時に現場職員との情報共有を行い、介護計画の見直しが必要な情報を見落とさないようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様等と密に連絡、ご要望を連絡して頂けるようお願いしており、出来る限り対応するようにしております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店で外食会を実施したり、買い物に職員と出掛けたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関と連携を図っております。ご本人様やご家族様の希望を伺い、納得いただいた上で適切な医療を受けられるように支援しています。	契約時に医療についての説明をし、かかりつけ医をホームの主治医に変更してもらっている。従来からのかかりつけ医を希望する利用者の受診は家族に依頼している。月2回の訪問診療で利用者の健康管理をおこなっており、協力医とは24時間の医療連携ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師と連絡を取り、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様の主治医、各病院のソーシャルワーカーとの関係を密接にとっています。お客様が入院の際には、入院先の医師・病棟看護師に直接情報提供を行い、安心して過ごせるような支援を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に事業所でできることを説明しており、お客様とご家族様の希望を出来る限りかなえられるよう、提携医療等との連携を密にとっております。	重度化や看取りに関する指針を整備し、契約時に家族に説明し確認書をもらっている。現状、食事の摂取が難しくなった場合や、医療処置が必要になった場合はホームでの生活は難しいことを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時にはフローチャートを作成し、管理者、提携医療、ご家族様の判断を確認することを徹底しております。また、マニュアルを作成し、職員が閲覧できるようにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防災訓練は年度研修計画にて予定しております。館内にはスプリンクラーが配備されており、外部機関、消防署による定期的な点検も受けております。	日中、夜間を想定し、火災時の避難訓練を実施している。夜間想定では夜勤職員を対象に、夜勤明けの時間帯に消防署の立ち合いで実施している。なお、近隣の協力体制はまだ構築できていないが、近隣在住の職員に協力を得ることになっている。ポンベ式の発電機や電池、テント、ブルーシートなども用意している。	利用者一人ひとりの避難方法を明確にしたり、災害に関する情報の入手手段の確認や、災害時の職員の役割分担などを明文化することを期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「お客様の尊厳を守る」声かけ、対応を心掛けるよう、日々スタッフと意志の共有をしております。また、お客様の生活歴を知ることにより、尊敬の念を持ってもらえるよう、個人ファイルの熟読を勧めています。	利用者の尊厳を守るための声掛けをミーティングなどで確認している。また、利用者の生活歴を把握し、その人に合った対応をするようにしている。プライバシーに関する研修を実施したり、利用者情報は外部に漏らさないよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけの介護ではなく、ご本人様に選択、決定していただけるような声掛けを行っています。また、自己決定が難しい方に関しては、ご家族様のご協力をたまわるなど、施設の意向を優先させることのないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様が入居される前に暮らしていた普通の暮らしをホーム内でも実現できるよう、寄り添える介護を意識しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を定期的に予約をして、ご利用いただいております。ご自分で整容をされる方はご自身の意志にお任せし、行為自体に障害が伴う方は介助にて行なっております。あくまでもご本人様の意向を優先することを徹底しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事作り、後片付けなどの生活行為全般に参加して頂けるよう心掛けています。	野菜のカットや味見、食器拭きなど、利用者ではできる範囲で参加している。また、外食の機会を設け、全員が出かけることができるように複数日計画をして支援している。昼食のパンを買いに行く利用者もいるなど、食事を楽しむことの支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期のお茶の時間以外にも、お客様の要望に応じて提供を行っております。水分制限のある方、とろみを利用する方などもあるため、お客様それぞれの状態にあわせて提供し、一日の摂取量を確認しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。また、訪問歯科を利用されている方もいます。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の申し送りで、排泄の状態報告をするようにしており、その状態に応じて、より自立の方向に向かえるようなプラン作りを心掛けております。お客様個人の排泄パターンを把握し、的確な時間にお声掛けするようにしております。	一人ひとりの排泄パターンに沿って声掛け誘導するなど、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間帯はおむつを使用する利用者が多い。なかには、入居時におむつだった利用者がリハビリパンツに改善し、トイレでの排泄が可能になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が情報共有できるように、水分食事チェック表を使用して、十分に摂取できているかを確認しています。体操や散歩への参加を促し、定期的に乳酸菌飲料の提供を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本ガイドラインは設定していますが、その日ごとにお客様にお伺いをし、ご希望に沿った形での入浴を楽しんで頂けるように心掛けています。	週3回は入浴できるよう支援しており、当日入れない場合は翌日にするなど、臨機応変に対応している。入浴は職員と利用者がコミュニケーションを取る時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息や入眠パターンを把握し、快適な休息、睡眠をとっていただけるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理については薬剤師に管理を行なってもらっています。お客様の処方薬につきましては薬局からの説明書面を事務所内にファイリングをして閲覧できるようにしております。誤薬防止対策で服薬マニュアル、記入帳票等を活用しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の作業を職員と共に行なっていただけるように働きかけております。お客様の嗜好に合わせて、編み物を行ったり、ラーメンの好きなお客様は職員と外食に出掛ける等、楽しみのある日々を過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩へのご参加の声掛けをし、お客様のご要望を伺い、外出する機会を増やせるように心掛けております。ご家族様にもご協力いただき、外食等へ出掛けられるようにしています。	近くのドラッグストアには週3回ほど、買い物から散歩に出かけている。また、月1回の外食や、時には庭で日光浴をするなど、外気に触れる機会を作っている。ホームでは外出に力を入れており、動物園や植物園などにも車で出かけている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお客様がお金を自己管理することの大切さを理解しておりますが、現在はお小遣いを管理者が管理しております。お客様のご希望に合わせて、一緒に買い物等に行けるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様のご希望に合わせて、事務所内電話を使用いただいております。手紙もご要望があればお出しいただけます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を考慮し、その季節に沿った飾り付けをしたり、花を置くなどして季節感のある過ごしやすい空間づくりを意識しております。	車いすの利用者が増え、リビングにはできるだけ物を置かないようにしている。席は特に決めておらず、利用者はソファや好きな場所で過ごしている。折り紙で作ったアジサイや風鈴などで季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を考えたり、ソファを設置することにより、お好きな方同士でくつろいで頂けるようにしています。また、居室で休みたい方は、ご希望通り居室で休んで頂いております。出来る限りご希望に沿って過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、馴染みの物をご入居後も使っていただくようご家族様をお願いしております。その後も必要となるものに関しては、ご本人様、ご家族様に相談をさせていただいております。	各居室にはクロゼット、洗面台が設置されており、利用者は入居時にタンスや家族の写真、仏壇など馴染みの物を持って来ている。家具の配置は家族と相談し、利用者が安心して過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全バリアフリーの為、お客様の安全を確保しながら、残存機能を活かし、自立した生活が送れるようになっております。常に各個人の状態を把握し、出来ることを率先して行なっていただけるよう努めております。		

【評価機関】